

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 ネガティブをポジティブに 町内会 リフレーミング！！	自治体名 大阪市東淀川区
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	ラーメンで命を守るきっかけを		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	Ra-me-nnnn		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→		2.学生
チームメンバー数(公開)	5 名		
代表者(公開)	新宮結斗		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

<チームメンバー名簿: [メンバー一覧ページ](#)>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、**どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に**示してください。将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらす**ことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※印応募チームとして解決したい課題のポイントを、いかにごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

自治会の加入率が年々減少している現代における自治会の重要な目的である、防災というのを会員だけではなく地域の幅広い層に伝えると同時に将来の自治会参加の下づくりとして自治会という存在を広めたい。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

● 提案の背景

現在、自治会の加入率は減少している地域が多い。東淀川区内も例外ではなく図のように加入率は減少の一途をたどっている。最新の値では、平均で約45%である。総務省「地域コミュニティに関する研究報告書」（令和三年）によれば都市部の自治会平均加入率は約60%とあるから非常に低い値ということが読み取れる。先にも述べたように昔の、地域住民

出典「東淀川区町会加入促進アクションプラン」

	加入世帯数	世帯数 (国勢調査)	町会加入率	(参考)市平均 町会加入率
平成31年調査	48,589	92,435 (平成27年)	52.5%	55.1%
令和2年調査	48,119	92,435 (平成27年)	52.0%	54.3%
令和3年調査	44,418	99,699 (令和2年)	44.6%	48.5%
令和5年調査	43,432	99,699 (令和2年)	43.6%	46.4%

<https://www.city.osaka.lg.jp/higashiyodogawa/cmsfiles/content/0000449/449209/akusyonnpuran.pdf>

同士の協力が必須だった時代にくらべ現代はインターネットの発達などで自らの力で生活が成り立つ現在であるが、それでも住民同士の協力が必須となる防災、災害対応の組織という側面に焦点にあてることが、将来的な町内会の意義が回復する糸口になると考えた。

● 提案の概要と目的

本イベントの目的は

- ① 参加者に避難所の場所と道のりを覚えてもらう
- ② 防災コーナーで防災意識の向上
- ③ 自治会を知ってもらい、今後の発展のための下地を形成

これらの目的を達成するために、ラーメンの屋台を来るきっかけとし各町内会で防災コーナーを開設し、防災コーナーの見学を行った人が、その後にラーメン屋台で食事をとることとしたい。またこのラーメン屋台は東淀川区内に点在する各ラーメン店に出店を要請し、最終的には1町内会につき1店舗という形を目指していきたい。時期と場所についてだが、時期については、店舗に出店の要請を行う以上、ある程度の集客が見込める場所ではないと店舗側に要請を断られる可能性が非常に高いと考えた、そのため具体的には決定していないが確実にある程度の来場が予定されている、なんらかの選挙の本投票日とする。場所は、投票所となる各町内会域にある小中学校の敷地内とし、教室等の室内は利用が困難とされることから、屋外の校庭や中庭等のスペースにそれぞれのブースを設置することをかんがえている。時期と場所の目的として、投票所となる場所は避難所として指定されており、多くの参加者は来場することで、自宅から投票所つまり避難所までの道の把握が期待できるという点があげられる。また協力を要請されるラーメン店側にとってもある程度の人数の来客を十分に予測することができるので要請に応じやすくなるし、普段ラーメン店に来ないような層にアプローチをかけることができ、自治会側もラーメン店があるおかげでより効率的な周知活動を行うことができるという点である。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

内容として、防災コーナーは、各町内会が持つ防災関連の用品や防災時に使用される段ボールベッドや防災頭巾の展示や使用体験、東淀川区に起こりえる災害を示したマップの掲示、町内会活動を示したものなどの展示を予定している。またラーメン店も通常のような業態ではなく、ラーメンのみの提供とし、ラーメン自体も量を半分程度、価格もその分安くすることで、ラーメンを完全な目的化かにせず店内の素早い回転を狙う。当日の流れとしては、参加者は、投票所で投票後、まずは防災コーナーにて各種展示の見学後、防災情報などを発信している大阪市のLINEの登録をし、その後ラーメンの食事へと進むという形になる。防災コーナーは、ラーメン屋台の入る人の調整場所を兼ねさせ、基本的にはコーナーないで整理券を配布し、順番待ちをコーナー内でしてもらうことや、混雑がひどい場合は、コーナー自体への立ち入りの制限をや順番列の整理を行うことを考えている。はじめから全17の自治会で行うことは、自治会とラーメン店との協力の仕方や開催時のノウハウなどの不足で、想定外の事に対処しきれない可能性があるため、初期は全17自治会のうち加入率が高い、3つの自治会で開催し、ノウハウや来場者数、その効果を見ながら、徐々に参加自治会を増やすことを考えている。このような手法は、新しいイベントを開催する上では定石のやり方であり、負担の軽減も兼ねている。

参考資料

各自治会内の避難所及び投票所に指定されている場所

自治会名	指定場所
東井高野	東井高野小学校
いたかの	井高野小学校
大隅東	大隅東小学校
大隅西	大隅西小学校
大桐	大桐中学校
大道南	大道南小学校
豊里	豊里小学校
豊里南	豊里南小学校
豊新	豊新小学校
小松	小松小学校
新庄	新庄小学校
下新庄	下新庄小学校
菅原	菅原小学校
東淡路・柴島	東淡路小学校 柴島中学校
淡路	西淡路小学校
西淡路	もと西淡路小学校
啓発	むくきの学園

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

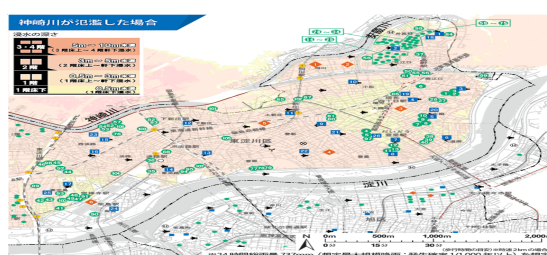
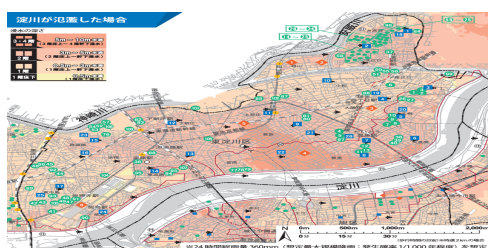
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

理由①

東淀川区の地理的特性

東淀川区は二つの川に囲まれている地形であり以下の浸水が想定される

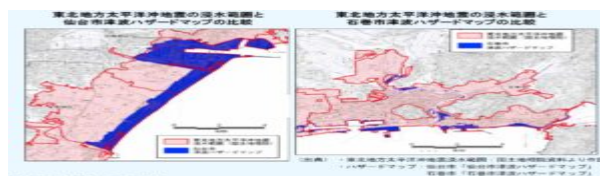


淀川、神崎川氾濫時の浸水想定マップ

<https://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000300847.html>

向かって左から淀川、神崎川が氾濫した場合の東淀川区内の浸水想定範囲とその度合いであるが、特に淀川が氾濫を起こした場合は、平均で3メートル以上と十分に命を奪われる深さである。またこの地域は将来的に南海トラフ大震災に被災する確率がとても高く、大きな地震も脅威であると同時に付随して発生するであろう津波にも注目しなければならない。大阪市（2024）によれば現時点で東淀川区に津波が到来する想定はされていないが、先の2011年に起こった東日本大震災で起こった通り、必ずしも想定内とは限らず、想定外の範囲まで津波の被害は十分考えられることができるのではないだろうか。現在の想定 of の少しでも津波が大きくなってしまうと容易に津波が到達することが考えられる。このような理由から、防災や災害に対する意識を区内で高める必要があるのではないだろうか。

東日本大震災における津波の到達想定および実際の到達範囲



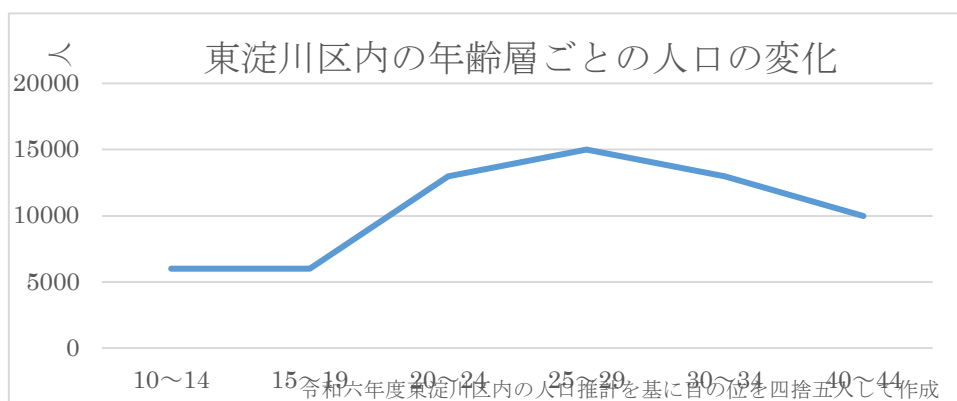
<https://saigairisk.com/46.html>

以上のことから今回のイベントでは、実際に避難所となる場所まで地域住民に来てもらうということも大きな目的の一つとしている。そのようにすれば、来場者はいざという時も行く場所がわかるという状態になることができるのだ。

総務省が2023年に行ったアンケートでは、市町村が自治会に期待することとして、防災、危機管理が最も挙げられていた。という点でも本イベントは必要であると考えている。

理由2

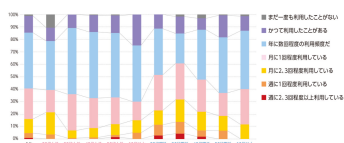
地域の人口的特徴



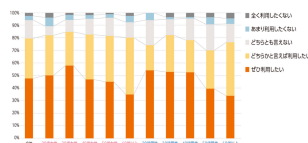
<https://www.city.osaka.lg.jp/higashiyodogawa/page/0000178152.html>

このグラフからわかるように大学生の年代から30歳前後の年齢層が最も多い人口でその後の人口は減少している。15～19の年代も低くはあるが、実際は大学生の一人暮らしで住民票を実家のままにしているということが考えられるのでさらに多いと予想される。こうなる要因として周辺に10以上の大学が存するほか、徒歩圏内にJR等があり各地への交通利便性が高いことから大学生や独身の社会人の一人暮らしの場所として選ばれていることが想定される。実際、令和二年の大阪市の調査では、昼間人口比率は大阪市が131.7に対し東淀川区は、97.1とかなり低い値をとっている。これらの要素からいえることは、流入する若い人は、東淀川区を定住の地と考える人は多いというわけではなく、結婚等の大きなライフイベントを機に他市町村に流出してしまうということだ。また〇川(2019)によれば若者独身世帯は、ファミリー世帯に比べ居住地への愛着が低いと述べている、このことから従来の町内会活動、またはその延長では、このような世帯にも興味をもってもらうことは難しいと考えた、今回のイベントでは、対象となる年代は特に設けておらず、すべての年代の参加を想定しているが、この地域の特性上、地域への愛着が比較的薄い人口のボリューム層である若者世代へのアプローチは自治会を存続させる、またはその意義から避けて通ることができないのではないだろうか。その若者が自治会活動に興味を持つためのきっかけとして考えたのが、ラーメンと防災である。まずラーメン店であるが東淀川区内の需要は非常に多く、沢山のラーメン店が存在し、ある食べログサイトには33もの店舗が掲載されている。上新庄地区はラーメンの激戦区として駅から東側の400メートル以内に16もの店舗が存在している。また数値という面から見ると若者への需要が高いこともわかる。J-net21 ラーメン店市場調査（2023）には以下の結果が得られた

【2】性別・年齢別に見た利用状況の内訳



【7】性別・年齢別の今後の利用意向



<https://j-net21.smrj.go.jp/startup/research/restaurant/cons-ramen2.html>

この結果からわかるように、まず利用頻度という点では一般的に若ければ若いほどその利用頻度は高くなっていることが読み取れる。またどの年代でも最低で40%は月に1回以上利用していることが分かり、男性で若いほど利用する人が多くなるのも特徴である。またラーメン店をまた利用したいと答えた人は男女どの年代も80%であり、かつ男女でも若い年代は明確にまた利用したいと答えている人の割合が高くなっているということがわかった。さらにリクルート(2021)によれば、外食で一人利用が最も多い(約59%)であったのはラーメン店などの専門的な店であることがわかった。これらのことから、今回のイベントにラーメン店を選んだ理由として、地域の人口特性上単身世帯で若者世帯にアプローチを行うためには、その層の需要が高かつ東淀川区に数多く存在するラーメンを使うことが最も良いと考えたから。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1

交渉や会場運営など

東淀川区区内にある 17 自治会（活動協議会）

メンバーは、現在の会員ふくめボランティアなども受け入れ

2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**

人

地元ラーメン店

防災コーナーの隣で一日限定のラーメン店の出店の協力を要請する。

東淀川区区内にあれば、どの自治会と協力するという制限は設けない

また値段等については店舗どおりの価格を想定

ボランティア

実際にその地区に居住している若者が自治会と関わりをもってほしいことから

基本的には、その地区に住んでいる若者（おおむね30まで）を対象に募集。

人が集まらない場合は、対象を撤廃する。

一日中行うイベントであるから1町内会 4.5 人の募集を行う。

報酬として、まかないのラーメン一杯を1人ごとに提供

モノ

展示物やテントなどは学校や町内会所持のものを活用

一日限定のラーメン店の具材等もラーメン店側で用意する。

カネ

基本的には大きな支出は想定していないが

初回活動時は、店舗側が赤字になった場合に備え、保証金を用意

また、活動時に、コンロや紙の食器など不足が発覚したものは適時購入して補充

3.実現にいたる時間軸を含むプロセス

共通事項

自治会員の防災グッズに関する知識を高めるため、定期的に勉強会の開催。
おおよそ2か月前をめどに各自治会内で協力を選定したラーメン店に要請し、協力店舗の決定

Step1 加入率の高い自治会で効果の検証

東淀川区を、東、中央、西に分けてそれぞれで最も町内会の加入率が高い自治会で試験的に実施
人の出入りの量や運営の手順などを確認。また参加者やラーメン店、自治会員に実施後にアンケートを
行い、課題のあらいだし。

Step2 できる限り全17自治会で開催

Step1の結果をもとに各町内会の規模を行旅し必要な人員数や課題などを把握し、各自治会で参加意思
を問い必要な人員がそろうなどの要素をもとに各町内会で開催の可否を決定する。

step3 選挙にとらわれない定期的な開催（理想の形）

先の参加者の量などを考慮し、このイベント単体での開催でも多くの人の出入りが考えられると判断
した場合に、定期的な周期を定めて、避難場所となる別の場所で定期的な開催することを理想的な形とす
る。